

目次

〈表紙題字 元広島大学教授 竹澤 丹一先生〉

〈きらめき—児童の活動から—〉

元うじなたんけん！：生活科の学習から	第2学年
「か」感動・「ま」まわりへの心づかい「が」がむしゃらに「り」臨機応変	
海の学習から	第4学年
山の学習から	第5学年
雄鹿原小学校との交流会	複式学級

〈巻頭言〉

学校の情報発信・情報受信を考える	林 孝	5
------------------	-----	---

〈教育トピックス〉

授業力を考える	秋 山 哲	7
---------	-------	---

〈学習のヒント〉

◆国語科

広島のお話を聞いていますか その2	羽 場 邦 子	8
新美南吉の世界へ	竹 森 文 美	10
今、改めて読みたい「俳句」Ⅱ	谷 栄 次	12

◆社会科

今年の夏、体験型の旅なら・・・ぜひ天草を！	新 谷 和 幸	14
自分の旅行を創りませんか	中 丸 敏 至	16

◆算数科

生活の中にある数理を生かして	岡 田 泰	18
いろいろなものの体積の学習から		
数をつくる学習を通して	土佐岡 智 子	20
遊びながら楽しみながら図形感覚を豊かにする	川 口 知佐子	22

◆理科

光の科学	土 井 徹	24
大きい・小さい 遠い・近い 明るい・暗い	古 瀬 健太郎	26

◆生活科

おもしろマシンをつくろう	樽 谷 秀 幸	28
そだててたべよう！—野菜の栽培—	石 田 浩 子	30

◆音楽科

わらべ歌で遊ぼう	近 藤 知 美	32
おんがくゲームであそぼう②	奥 本 絢 子	34

◆図画工作科

「目のある風景」	川 口 浩	36
----------	-------	----

◆家庭科

うどん派？そば派？	高 畑 律 子	38
-----------	---------	----

◆体育科

球技の授業～体育で育む力～	福 田 忠 且	40
ルーツを探れ（陸上競技編）！！	高 田 哲 也	42

◆英語活動

IMAGINE—言葉をつなぎ 意味を紡ぐ—	天 野 紳 一	44
-----------------------	---------	----

◆特別支援教育

視覚支援でつきたい力	梶 山 雅 司	46
劇あそびの魅力～クラス発表会に向けた取り組み～	中 山 美 代	48
ぼくたち、わたしたちだけでできるもん！	山 形 恵美子	50
—自立を目指して—		
リズムに合わせる	高 阪 英 徳	52

〈保健室の窓から〉

ケガしたら すぐにゴシゴシ ピカピカに	後 藤 美由紀	54
---------------------	---------	----

〈給食室の窓から〉

牛乳の科学Ⅲ	天 野 聖 子	56
--------	---------	----

〈生活・心の扉〉

児童会活動で心を育てる—しののめまつり—	羽 場 邦 子	48
----------------------	---------	----

〈教育随想〉

ねえ、知ってる？	山 形 恵美子	59
----------	---------	----

リズムに合わせる

高 阪 英 徳

1 はじめに

秋から冬にかけて子どもたちがグラウンドで、なわとびのいろいろな跳び方を練習している様子を多く見かけました。なわとびの跳び方も、たくさんの種類があり、前跳びや二重跳び、交差跳び、あや跳びなど、たくさんの種類があります。なわとびは縄を腕で回しながら、タイミングを合わせてジャンプするという運動ですが、いつごろからどんなことがきっかけでできるようになったかは、私自身にも記憶がありません。気付いたらなわとびができていて、いろんな跳び方にもチャレンジしていました。きっと、なわとびを始めたときには、見よう見まねでやったらできたという感覚でなわとびができたのだと思います。

2 なわとびが苦手な理由として

なわとびが苦手という理由として、次のことが考えられます。

- 自分の体の各部位、対象物との関係についてのボディイメージが認識できない。
- 手足の動きを思うようにコントロールできないため、回したなわとびのタイミングに合わせて跳ぶことが苦手。

○運動に対して上手にできないことや失敗の組み合わせから、心理的抵抗が生じる。などが挙げられます。自分でなわとびを回して、縄のタイミングに合わせてジャンプするという感覚が難しく、苦手意識をさらに強くしているようです。このような理由から子どもたちがなわとびを苦手としているようですが、養護学級の子どもたちにも同じことが言えます。

3 長なわとびの取組み

この冬、養護学級中学年でもなわとびに取り組みました。縄を回しながら、タイミングを合わせてジャンプするという二つの動作が、ボディイメージの認識を難しくしているのなら、まず、一つの動作からやってみようということで、跳ぶ運動から取り組みました。

○ステップ1～棒ジャンプ

一人がスポンジの棒を回し、回る棒のタイミングに合わせてジャンプする。(長なわとびよりジャンプするタイミングにゆとりがあり、自分の目で認識してジャンプできるので跳ぶことが誰でも簡単にできます。)

○ステップ2～リズムジャンプ

今年の養護学級のリズムなわとび大会で使用した曲「目指せモスクワ」のリズムをとり、1フレーズに合わせて8回ジャンプする。

○ステップ3 (長なわとび)

ステップ1、2の練習をもとに、長なわとびのタイミングに合わせてジャンプする。

4 感覚を養う

感覚を養うために、上記のステップ2とステップ3がとても重要でした。大人が二人で子どもたちのリズムに合わせて、長なわとびを回すと約1秒で一回跳んでいました。最初のタイミングさえとることができれば、リズムに合わせて跳んでいけばよいのですが、そのリズムに合わせて連続ジャンプをすることが難しいものでした。そのため、リズムなわとび大会の「目指せモスクワ」の曲に合わせてジャンプの練習をしました。リズムなわとび大会では曲が流れると、①リズムをとる、②ジャンプする、③グーパーグーチョキでジャンプする、④前後にジャンプするという順番で発表していききました。その中で、長なわとびをするための連続ジャンプの感覚を養うために、②のジャンプするというのに取り組みました。ここでは8回ジャンプするのですが、ここで流れる曲が約8秒なのです。そのため、8秒間の間に一定のリズムで8回ジャンプする練習をしていくと、長なわとびを跳ぶリズムにほぼ一致します。そうやって練習していきながら、長なわとびの感覚を養っていききました。

ここまでくると、あとはなわとびにチャレンジしていきます。なわとびになると、一人で縄を回して、ジャンプするだけなのですが、この2つの動作に取り組むことが、なかなか難しいようです。しかしながら、いつかできることを信じて、練習あるのみです。

5 おわりに

将来、養護学級の子どもたちが、自分なりの自立生活を送るために、就労したり、作業所やデイサービスを利用したり、施設に入所したりするなど、自分にあった生活を選択していくようになります。もちろん、日中に仕事、作業、活動を行っていくことも大切ですが、それ以外の生活を整えていくことも大切です。なぜなら、仕事も生活もどちらもバランスよく整っていないと仕事も長続きできません。その中で、スポーツをすることで体力を維持できたり、リフレッシュできたりする手段として、なわとびがその一つになればと思いました。子どもによっても興味関心は違うので、また、いろいろな活動に取り組んで行こうと思います。

